

令和3年度 総合教育会議 会議録

- 1 **と き** 令和3年9月29日（水）14:00～15:00
- 2 **と ころ** 大垣市役所4階 市長公室1
- 3 **出席者** 石田仁大垣市長、広瀬幹雄副市長、山本譲教育長、河合保孝教育委員、堀哲也教育委員、山川隆司教育委員、平野晶子教育委員
- 4 **事務局** 藤企画部長、寺嶋事務局長、神谷学校教育課長、堀内教育総合研究所長、吉安庶務課主幹、稲川庶務課主任、奥田学校教育課指導主事
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題** 大垣市小中学校英語教育構想について

7 会議録

発言者	発言概要
寺嶋 局長	<p>本日は大変お忙しいところ、令和3年度大垣市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、教育委員会事務局長の寺嶋でございます。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、石田仁大垣市長より、ごあいさつ申し上げます。</p>
石田 市長	<p>皆さんこんにちは。令和3年度の総合教育会議ということで大変お忙しいなか、お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>平成27年度からこの会議は開催しております。教育委員会は独立委員会制度でございますけれども、市行政と教育委員会が課題を共有しながら共に解決しくためにも、皆様から様々なご意見を頂き、方向性を見出して行こうと思っております。</p> <p>しかし、ご存知の通り、今は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、大変な状況であります。我々行政といたしましても、新しい時代の大きな転換期であると認識しております。</p> <p>おそらく、明日、皆様のご協力のおかげで、緊急事態宣言は解除される見通しでございますが、まだまだ油断はできず、これからもご協力いただきたいと思います。</p> <p>学校現場においても、子どもたちもマスクをしたり、咳エチケットを守ったり、ソーシャルディスタンスを意識したり、大変な状況でございます。</p> <p>そんな中、今年度の総合教育会議は、全国に先駆けて行われております本市の英語教育について、さらに取り組みを進めていきたいという思いで提案させていただこうと思っております。</p> <p>昔と比べ、英語は、子どもたちのより身近なものとなっております。昨年の学習指導要領の改訂に伴い、進んでいた大垣市の英語教育に、全国が追い付いてきたため、より発展させていきたいと思っております。</p> <p>皆様方のご支援、ご協力をいただきまして、大垣市の教育行政の更なる充実を進めてまいりたいと思っておりますので、限られた時間でありませけれども、今日はよろしくをお願いいたします。</p>
寺嶋 局長	<p>ありがとうございました。次に、本日の出席者でございますが、お手</p>

発言者	発言概要
	<p>元の名簿をもって紹介に代えさせていただきます。 それでは次第3、「議題」に移らせていただきます。 これより進行につきましては、石田市長にお願いいたします。</p>
石田 市長	<p>それでは、これより、議事に入ります。 本日の議題は、大垣市小中学校英語教育構想について でございますが、委員さんと意見交換する前に、事務局から説明をお願いいたします。</p>
神谷 教育教育課長	<p>大垣市小中学校英語教育構想について <別添資料にて説明></p>
石田 市長	<p>ただいま、事務局から大垣市小中学校英語教育構想についてご説明をいただきました。 それでは、教育委員の皆様から、ご意見を頂戴したいと思います。 河合委員ご意見をお願いします。</p>
河合 委員	<p>コミュニケーション能力ということで、英語を何のためにやるのかが、大事であると思います。今回の多様性を尊重した行政社会を目指すという立派な趣旨と同じように、グローバル化を目指す教育構想はすばらしいと思う。</p> <p>しかし、大垣市は、先駆ける反面、小学校3, 4年生の外国語学習から教科化という、成績をつけるかたちとなってきました。コミュニケーション能力の育成に重点を置くならば、教科化とすることは、本当に良いのか、というところが私は少し、疑問を持っております。少なくとも、低学年は、まだまだ外国語活動で十分でないかと思います。まずは、母国語である日本語をしっかりと話せること。さらには、話す内容が日本語であれ、英語であれ、話す内容が自分たちのテーマに対し、しっかりと話せないうちから、ツールである英語や日本語を教えることに対して、内容が伴っていないことになってしまうのではないかと思います。</p> <p>たまたま今日、うちの大卒の新入社員の話ですが、50代のお客様に対して、私と一緒に接客をしました。新入社員が、コミュニケーションをとるように一生懸命頑張りましたが、接客した後に、自分自身で、敬語・丁寧語の使い方を間違えていたことを、気づいたのです。大卒の方でも、私自身もですが、敬語・丁寧語・謙譲語の使い方が正確ではない状況があります。新入社員はまだ自分で気づいたから良いので</p>

発言者	発言概要
	<p>すが、そういった日本語に対する教育も英語と同様に、教育してかないと、コミュニケーション能力の育成につながっていかないのではないかと思います。</p> <p>そういった意味で小学校の低学年は、まだまだ教科化とするのではなくて、日本語や英語以外のコミュニケーション能力の育成に力を入れていくべきではないかと思います。</p>
石田 市長	<p>私自身も、丁寧語や謙譲語はなかなか難しいなと思います。母国語にもしっかりと軸足をおきつつ、さらにグローバル化のなかで、英語教育をどのように進めていくのかを検討させていただきたいと思います。続いて、堀委員ご意見をお願いします。</p>
堀 委員	<p>児童生徒の英語に対する積極性を育むような意図が感じられる英語教育構想でした。小学校のうち、理論より、まず実践を徹底して、基本的に「楽しく学ばせる」「興味を持たせる」ことが英語教育のポイントではないかと思います。内容は非常にカジュアルで、「勉強」のイメージからは遠いものにして「英語の勉強化」は極力避け、子どもたちにとって英語の楽しさ、便利さを印象付けていって欲しいと思います。また、英語教育を通じて、「どのように必要な情報を英語で読み取るか」「分からないことをどのように英語で質問するか」「自分自身をどのように表現するか」「知らない単語にでくわした時どう対処するか」といったことを学ぶことができる機会となれば、「外国語の学び方」が学べる事で、おそらく英語以外の外国語を学ぶときにも流用できるのではないかと思います。これからの子どもたちには、「言葉の壁」にめげず、こういったたくましさを発揮していってほしいと願います。</p> <p>最後に、学校の先生方に対しても、研修等を通じて、サポートしていただけたら、より良いものになるのではないかと思います。</p>
石田 市長	<p>英語は、世界基準で話されていますが、言葉の意味合いや中身が大事であると思います。先生方におかれましても、昨年度のGIGAタブレットに関しても、一生懸命対応していただいております。今回の英語教育ということで、大変かと思いますが、協力させていただきたいと思っております。</p> <p>続いて、山川委員ご意見をお願いします。</p>
山川 委員	<p>厚労省の技監時代に、アメリカに留学していましたが、日本語にどっぷり浸っている世界から、ネイティブな英語の世界にいくと、言葉の</p>

発言者	発言概要
	<p>壁を如実に感じました。</p> <p>言語は、12～13歳までに習得され、それ以降はスムーズに吸収されなくなるとの仮説があります。このことから、できるだけ早い時期に、より本格的な英語学習を行うことは、英語脳を養うのに有効とことです。英語脳とは、脳内で日本語に変換することなく、英語を英語として理解することを意味して、中高生になってからでは英語脳を育てることは難しいとされています。日本語にはない、英語特有の発音やイントネーションを聞き分ける英語耳の習得も、実践的な英語を身に着けるカギとなります。小学生のうちから少しでも多くの英語に触れておけば、英語耳を育てることにもつながります。</p> <p>英語の論文がしっかり書くことができる人は、日本語をしっかりと書くことができます。日本語のあいまいさも大事ですけど、論理的に考えるには、英語の力も重要です。</p> <p>大垣市の英語は、他市と比較すると、ずっと進んでいます、ALT、VETの時間が短いと思います。さきほどの異文化交流、やはりICTがあるので、直接英語を聞けるというのは、良いことだと思います。Speaking QuestやGTECは、評価していただけるというのは素晴らしいことだと思う。少しでも励みになり、グローバルな人材を育成していきたい。そして、世界にはばたく人材を育成し、ノーベル賞がとれる人材を育てたいと思います。</p>
石田 市長	<p>日本語の曖昧さも必要なことではありますが、論理的な思考ということで、英語は必要なことであると思います。</p> <p>「世界に飛び出す」ということで、子どもたちには、たくさんの経験をさせてあげて、いろいろな分野に飛び出してほしいと思います。</p> <p>続いて、平野委員ご意見をお願いします。</p>
平野 委員	<p>大垣市は、平成18年度から全国に先駆け、市内全小学校に英語教育を導入するなど、先進的な外国語教育を導入し現在に至っていることは、高く評価できると思います。</p> <p>英語教育は、子どもたちにとり、社会のグローバル化に対応したものであるという意味に先立ち、「世界の人々とコミュニケーションを楽しむ」という魅力があります。その点から特に強く興味を持ったのが、中学1年生、3年生時に行う、「他行のALTとの英会話に臨む機会の設</p>

発言者	発言概要
	<p>定」です。</p> <p>動画で見た、生徒が ALT と 1 対 1 で会話に挑戦しようとする姿は、自分の知る限りの英単語を振り絞りだし、一生懸命に相手に伝えようとするものでありました。子どもたちは、こうした場面を得ることにより、言いたいことが伝わった時の喜びを体験することができ、とても良い経験になります。そして、「もっともっと話をしたい」と思うはず</p> <p>です。</p> <p>文法や発音も大切ですが、会話においては「話したい!」「伝えたい!」という気持ちが、まずは大切だと考えております。そして、その気持ちが高まる機会は一回でも多いことが望ましいと思います。</p> <p>私は、15 歳の時に米国でのホームステイを経験したことがあります。その際、相手が私の話を一生懸命聞いていることに安心と励ましを感じ、自分も必死で英単語を並べた記憶があります。そして、そんなホストファミリーと会話が少しずつできるようになった喜びを得たことは、とても大きな人生経験となりました。だんだん耳も慣れ、4 週間後のお別れの時には、相手の話すスピードについていけるようになったことを思い出すと、今の子どもたちにも、とにかく外国人と話すチャンスを作ってあげることが重要だと考えています。</p> <p>さらに、子どもたちが自ら将来像を思い描きながら、必要なコミュニケーションのスキルとコンテンツ、そして世界の人と関わる上での心構え等も高められるような英語教育に期待したいと思います。</p>
石田 市長	<p>先日、おおがきミナモソフトボールクラブの選手とお会いした際に、私の片言の英語で、会話が成立したことは、本当にうれしく感じました。子どもたちも、こういった経験ができると良いと思います。</p> <p>皆様方からご意見を頂き、私どももやりたい気持ちばかりですが、コロナ禍で財政的に厳しい面もありますので、今一度検討しながら、子どもたちのために、こういった学習環境を整備しなければならないと思っております。</p> <p>最後に、教育長からもご意見をお願いします。</p>
山本 教育長	<p>今頂戴したご意見は、いずれも非常に貴重なご意見ばかりですので、これから生かしていきたいと思っております。</p> <p>数年前にある高校へ行って、授業をみた時のことですが、高校 3 年生の子が、発展途上国の医療について調べ、英語で発表していました。</p>

発言者	発言概要
	<p>その発展途上国はカンボジアで、カンボジアの医療制度は、なかなか調べることはできませんが、かなり詳しく発表しているので、授業が終わった後に、どうやって調べたのか聞いてみました。すると、SNSで英語を用いてやりとりをし、カンボジアの高校生から取材をして、レポートをまとめましたと聞きました。</p> <p>グローバル化とはいえ、高校生が、ICTを使い、ここまでできるのかということですので驚きました。</p> <p>これからの子どもたちは、飛行機で現場に行かなくても、つながってしまう状況にあるのだなと感じました。そういう意味でコミュニケーションをとるのに英語が中心になってくるなと思います。</p> <p>あわせて、タイの子どもたちは、英語を上手に使います。タイは、1995年くらいから、小学校の段階で英語教育を始めており、それなりの英語力が身についています。韓国・中国もかなり前から英語教育をしており、日本は、アジアの中では、遅い方になります。そのため、英語教育に力をいれていかないといけないと思っております。</p> <p>しかし、勉強や覚えこませることではなくて、楽しく活動しながらコミュニケーションをしていくことを小学校の低学年の時に大事にしていきたいと考えています。子どもたちが学ぼうという気持ちになることが、何よりも一番であり、楽しく積極的なコミュニケーションをとることが、大きなポイントです。文法や単語にとらわれると、勉強というイメージが強くなりますが、それ以上に、コミュニケーションできた喜びという体験をできるだけ積み重ねていき、そのことがきっと必然的に英語を勉強しようという方向に向いていくと思っております。</p>
石田 市長	<p>否定的という意見ではなく、頑張っていかなければならないという意見をいただいたのではないかと思います。学習ということにとらわれず、子どもたちがやる気を持っていけるという環境づくりの中のツールとして、英語教育があると思っております。</p> <p>やはり、未来を担う子どもたちにとって、英語は、コミュニケーションツールというものだと思っております。</p> <p>皆様からいただいた意見を参考にしながら、今後の小中学校の英語教育構想の実現に向けて頑張らせていただきたいと思います。</p> <p>全体を通じて何かありませんか。</p>
河合委員	この英語教育の中で、外国人の方々との直接的な接点が少ないのでは

発言者	発言概要
	<p>ないかと思えます。英語で大切なコミュニケーションを身に着けるうえで、直接外国人の方と接する機会を増やしてほしいと思えます。その一つが、ミナモのようなスポーツに対して、ひとつ機会をつくっていただけるような施策や行動を市がしていただきたいと思えます。オリンピック・パラリンピックは終わってしまいましたが、そういった選手の誘致等に対して、一流の選手たちが大垣市で長期間滞在することをしていただきたい。その際に、子どもたちや市民と一緒にコミュニケーションをとれる、そういった機会を作っていただきたい。オリンピックは3年後になってしましますが、アジア大会が名古屋でありますし、この地域に滞在したり、合宿したり、いろいろなことがありますので、お金がかかることかもしれませんが、そういった誘致活動が英語教育とあわせて、大切なことであると思っております。</p>
石田 市長	<p>ミナモだけにとどまらず、FC 岐阜等いろいろな機会をとらえてまいりたいと思えます。そのような機会がありましたら、みなさまにも教えていただきたいと思えます。</p>
寺嶋 局長	<p>今日いただきました意見につきましては、今後の英語教育構想に生かしていきたいと思えます。 これをもちまして、令和3年度の総合教育会議を終了させていただきます。</p>

閉会